

読売俳壇

矢島 渚男 選

深緑やアルカンのピアノ「風」を聴く

【評】アルカンと聴けば「君もか」と言つて肩に手を置きたくなる。「平明にして神秘的」とも評され、ショパンと友人であった。この句の「風」は8分と長い方だが多くの曲は5分以内の短さで俳句的とも言える。猫の恋ネコだつてはじめてかも知れず

神奈川県 石原美枝子

【評】獣本来の叫び声は壮大な原初の声だった。近頃は去勢率が上がつていて、なかなか聴けないから、雌猫は初めてなので逃げ出すかもしれない。

母の日やよく似た貌の私です

東京都 神通美代

【評】これは遺伝の真実。単純ながら正直なユーモア。

羊の毛刈る刈り後のピンク色

広島県 三宅千恵美

忙しき日々の八十八夜かな

柏市 川浪 勉

分校の生徒の数の鯉のぼり

入間市 角貝 久雄

あいそなき顔を揃えて溝澄え

富山市 藤瀬 晴夫

この今も時代閉塞啄木忌

稲城市 山口 佳紀

魔線の改札口に初燕

横浜市 矢沢 寿美

頼杖のこつんと外れ目借時

都留市 野中 定代

高野ムツ才 選

宝物幾つもあると雲の峰

京田辺市 加藤 草児

【評】作者が見上げて雲の峰は少年時代の雲の峰でもあろう。当時は雲の峰という言葉を知りなかつたかもしれない。しかし夢を育んでくれたかけがえのない宝物であった。血管の十万キロや夏に入る

川崎市 野山 道助

【評】人間の血管は毛細血管まで含めて約十キロで地球二回り半にあたる。そのすみずみに行き渡る血液を力に今夏も乗り切りたいもの。滴りを追ひ滴りの滴りぬ

北本市 萩原 行博

【評】大岩の間あたりから落ちる滴り。三度繰り返される「滴り」に加えて「追ひ」という動きを示す動詞が山の生命力を生きて伝える。さみしさを寄せ集めたら紫陽花に

大和市 おおもりじゅん子

万緑や鳥は真つ直ぐ巣に帰り

武蔵野市 南 寛康

路地消えて子らの声消え鯉のぼり

藤岡市 氏家 和子

ハムスターの耳の薄桃薄暑光

松江市 三万 元

椎若葉空に広がる触れ太鼓

日立市 菊池 風峰

ティンパニーの一打すなはち花吹雪

神戸市 倉本 勉

一声に百の手力御興浮く

神戸市 西 和代

正木ゆう子 選

葉桜やもう手をつなぐこともなく

東京都 伊藤 直司

【評】子供と子供、親子、恋人、夫婦。想像する組合せは色々。しかしこの季節ならば、親子と特定できる。入学の時までは手を繋いでいたのに、あつという間に親離れしたのだ。窓すくの海を消したる春驟雨

袖ヶ浦市 浜野まさる

【評】海はすぐ目の前なのに、それさえ見えなくなるほどの激しい驟雨。舌足らずのようについて、実感のこもる「窓すくの」が、素朴でいい。牧開きはんこぼんこ牛駈ける

津市 中山 道春

【評】「ばんこぼんこ」とは初めて見るオノマトペ。しかもとても説得力がある。それだけでこの句は十二分に成功したと言えるだろう。つばくらめ羽静かなる時速し

岡山市 上塚 香

還り来て休むを知らぬ燕かな

東京都 伊藤 博之

老夫婦とて喧嘩するさくらんぼ

始良市 井之川健児

全身で床を磨く子風光る

東京都 山田真理子

やはらかき言葉は強し柿若葉

浜松市 野畑 明子

春の夜や葉書に綴るリクエスト

千葉市 石野 勤

竜天に登るがごとく花吹雪

国分寺市 加藤 武夫

小澤 實 選

脚突つ張つて殿様蛙吞まれゆく

大阪府 池田 寿夫

【評】この殿様蛙を吞んでいる主体は何か。「吞まれゆく」とあるから、一瞬で吞む鳥ではない。蛙の脚が突つ張つてはいるわけだから、大きな蛇、青大将ではないか。ビートルズ画像に乱れ昭和の日

池田市 後藤 和豊

【評】昭和の日のテレビに、ビートルズ来日の際の画像が流れる。その画像の乱れに、昭和からの時間の隔たりを感じ取っているのである。第30回日本歌人クラブ賞黒木三千代「草の譜」(砂子屋書房)

武蔵野市 相坂 康

【評】昭和の日に、身近なものなかつたかしいあれこれの思い出している。居間のテレビは白黒で、卓袱台が据えてあり、箒で掃除をしていた。新玉葱酢豚の皿に香りけり

白井市 昆舎利愛子

短夜や波音高くなたみくる

唐津市 室井加代子

卓袱台の裏へ廻りぬ大蟬

名古屋市 可知 豊親

よろつともリュックに米と春キャベツ

神戸市 久下 明

手を拭きて顔を拭いてさあビール

青梅市 増田 正

遠足の列の過ぐるを待ちにけり

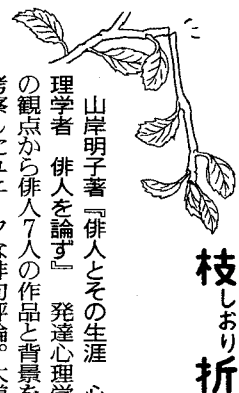
三原市 天崎 千寿

新樹光浴びて双子の乳母車

龍ヶ崎市 小宮 光司



題字デザイン・イラスト 福田美蘭



枝しおり折

山岸明子著『俳人とその生涯 心理学者 俳人を論ず』 発達心理学の観点から俳人7人の作品と背景を考察したユニークな俳句評論。大道寺将司・元死刑囚や芥川龍之介を含めるなど対象は幅広い。
(文学の森、2530円)

●第16回日本歌人クラブ大賞 内藤明『抒情の構造 喪われた八故郷』の位相(現代短歌社)『三年有半』(砂子屋書房)を中心とした永年の功績に対して。
●第52回日本歌人クラブ賞 黒木三千代「草の譜」(砂子屋書房)

●第31回日本歌人クラブ新人賞 久永草太「命の部首」(本阿弥書店)

●第23回日本歌人クラブ評論賞 内藤明『抒情の構造 喪われた八故郷』の位相(現代短歌社)

●第68回短歌研究新人賞 霧島あきら「正しい椅子」(30首)

●第16回田中裕明賞 藤井あかり「メソティント」(ふらんす堂)